

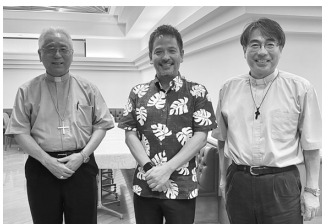
うだる暑さの東京で : 京・江戸・博多、そして巴里 : 31

南野, 森
九州大学大学院法学研究院 : 教授

<https://hdl.handle.net/2324/7397120>

出版情報 : 福音宣教. 78 (9), pp.12-13, 2024-10-01. Oriens Institute for Religious
バージョン :
権利関係 :





ポスターの写真(左)は、今回の講師3人のそれぞれの写真を合成したもの。初日の夜の懇親会后、折角なので合成ではない3人の写真を撮っていただきました(右)。

京・江戸・博多、そして巴里

南野 森●憲法学者

31 うだる暑さの東京で

8月23、24の両日、厳しい暑さの東京にいた。カトリック日本カテキスタ会(NCK)の第41回東京公開講座に参加するためである。会場となった江東区潮見の日本カトリック会館にお邪魔するのも初めてであった。

NCKは、一九六九年、神言会のG・ゲマインダ神父(一九〇〇〜八五)により名古屋で設立された。昔の言葉で言うところ「公教要理」、今の言葉では「カテキズム」、これを信徒や求道者に教える人々を「カテキスタ」と呼ぶ。現代のカテキスタは、教理教育に加えて教会外で福音宣教に励むことをも使命としているが、NCKは、そんな全国のカテキスタたちの連帯を強め、人的な交流と霊的・知的な成長を目指し、活動する組織である(現在の顧問は、中村倫明大司教)。

NCKの活動のうち、おそらく最大の企画が、毎年開催される養成講座である。全国のカテキスタに参加が呼びかけられるが、ここ20年ほどは「公開」講座とし、カテキスタでない信徒も参加可能となっている。そして10年前から「第二バチカン公会議公文書を学ぶ」シリーズが始まり、まず『教会憲章』を、そして二〇一九年から『現代世界憲章』を、毎年2章ずつ学ぶ講座が開かれている。

そして今年は、同憲章の第二部第三章「経済・社会生活」と第四章「政治共同体の生活」を学ぶ講座が東京で開かれた、というわけである(10月には同様の講座が大阪でも開催の予定)。初日の第一講話が高見三明名誉大司教による「第三章・第四章の概要」、第二講話が私の「第四章／教会・政治・憲法」、そして2日目の第三講話が中村大司教による「第三章／経済とは、世の中をよきものにし、人々を

しあわせにしていけるもの」であった。初日の夜には懇親会もあり、また2日目の最後には、大司教お二人による司式で「派遣のミサ」が捧げられた。

一九六二年一〇月から六五年一二月にかけて開催された第二バチカン公会議は、「精神的貧困に苦しむ世界において、教会が現代人の諸問題解決のために貢献すべく、全信者の力を結集する」(教皇ヨハネ23世)ために開催され、その主要目標の一つとして「現代世界の人々と教会の対話」(教皇パウロ6世)があげられた。3年余の会議を通じ全部で16の公文書(憲章4、教令9、宣言3)が採択されたが、そのうち『現代世界憲章』は、いちばん最後(閉会の前日)に採択されたもので、全93項・326段落からなる、いちばん長い文書であった。

もちろん私は第二バチカン公会議の専門家ではないので、なぜ私が講師に抜擢されたのか不可解な部分はあるが、60年前に教会の英知を結集して出されたこの公文書を、憲法研究者の立場で改めて読み直してみると、あちこちに日本国憲法の思想や理念と共通する部分があることに驚かされる。とりわけ「政治共同体の生活」と題された第二部第四章はそうであり、そこで、「教会・政治・憲法」と題して話させていただいた次第である。

その内容については、いつか機会があれば書かせていただきたいが、うだるような暑さのなか、各地から集まった人々が、ともに祈り、学び、親しく語り合った。私の連載を楽しく読んでいるという方も何人か声をかけてくださった。充実の二日間、仲間に入れていただいたことに感謝している。



みなみの・しげる●九州大学法学部教授。京都市生まれ。洛星中・高等学校、東京大学卒業後、同大学大学院、パリ第10大学大学院を経て、2002年九州大学助教授、14年教授。AKB48の内山奈月との共著で好評を博した『憲法主義』(PHP文庫)ほか著書多数。